

そしてまた両者の間をつなぐ役目の人間（すなわち現状では小生であるが）も、問題点の深い

理解につとめたうえで、相当の覚悟をきめて事に当たる必要があるように思われる。

植物防疫事業20周年記念で 植調関係者18名表彰さる

昭和46年6月19日、農林省主催により植物防疫20周年記念会が開催され、植調関係より18名が表彰された。表彰は功績者表彰と永年勤続者表彰とに分けられ、このうち功績者表彰は農林大臣表彰と植物防疫20周年記念会会長表彰に分けて行なわれた。つぎに、表彰を受けられた各氏を、ご紹介します。

農林大臣感謝受預者

江 副 浩 氏



昭19. 宮崎農専卒.

昭39. 佐賀県農試作物部長、
現在に至る。

2,4-PAの実用化全国連絡試験を担当して以来、水田における2,4-PAをはじめ、MCP、水中2,4-PA、PCPなどの使用法、とくにMCP・CAの使用法の確立、その他新除草剤の適用性の判定、水田における除草体系の組み合わせ、除草剤使用技術の普及に努めた。

植物防疫20周年記念会会長表彰

〔功績表彰者〕

（ 県勢順 ）

佐々木正剛氏



昭16. 北海道大学卒.

昭39. 北海道農試作物第1
部長、昭和43. 日本てん菜
振興会てん菜研究所育種部長、
現在に至る。

除草剤研究の草創期にあって、組織的試験研究を推進。昭27.～38. 除草剤作用特性試験並びに畑作部門を総括し、昭39.～43. 除草剤試験の取りまとめ責任者として活躍した。

永 沢 勝 雄 氏



昭7. 九州大学卒.

昭16. 東京農業教育専教授。
戦後千葉農専～千葉大学園芸
学部教授、現在に至る。

果樹の薬剤摘果の問題の重要性に着目し、りんご、みかん、ももなどについての薬剤摘果試験研究に従事した。

森 英 男 氏



昭9. 東京大学卒.

昭43. 農林省園芸試験場長。
昭45. 全購連園芸対策室参
与、現在に至る。

りんご被膜剤、落葉果樹の摘果剤、果樹園用除草剤の利用研究の推進に努めた。

原 正 市 氏



昭13. 北海道大学卒.

昭26. 北海道経済部農業改良課兼北海道立農試岩見沢試験地主任。

昭27. 専技、現在に至る。

寒冷地稲作に対し、除草剤の使用法、散布

機の開発，除草剤使用の啓蒙など，除草剤普及の基礎と普及率の向上に努めた。

須 藤 孝 久 氏



昭 2 0. 盛岡農専卒。

昭 2 1. 秋田県農試に入り，
現在は水田作科長。

寒冷地水田除草剤の具備すべき条件を検討し，2,4-P

AよりMCPの安全性の高いことを認め，同時にMCPによる倒伏防止法，PCPによるミズハコベ防除法を発表した。また，八郎潟干拓地の雑草防除法を明らかにした。

佐 々 木 菊 次 氏



昭 9. 盛岡高農卒。

昭 2 5. 山形県専技，昭 4 0.
山形県農試置賜分場長，昭42.
山形農業短大校長，昭 4 5.
日産化学工業㈱技師。

発芽，発根，水温上昇剤などの実用化試験，除草効果と薬害に関する研究，残効性試験，展示圃の設置運営，使用技術の普及推進に努めた。

遠 井 忠 一 氏



昭 1 7. 栃木県矢板農校卒。

昭 2 4. 栃木県農試に入り，
現在は水田作関係の試験研究
に従事。

畑作除草剤の利用試験，水田作関係ではPCPなどの移植後初期処理用除草剤の使用法の確立，稚苗田植機栽培における除草剤使用法の確立，中期処理用除草剤の利用法など除草剤の安全で効率的な使用法の確立に努めた。

橋 爪 厚 氏



昭 1 5. 長野県上伊那農高卒。

昭 4 0. 千葉県農試水田作研究室長，現在に至る。

除草剤の選定，除草法の確立，とくに早期栽培により増加しつつある多年生雑草の生態の調査，除草法の確立，PCPによる水稻の生育調節の研究に努めた。

横 田 清 氏



昭 3 5. 信州大学卒。

昭 3 5. 長野県園試果樹部に入り，現在に至る。

りんご摘果剤の実用化試験に従事し，紅玉，国光に対する散布技術を確立。果樹園用除草剤の実用化試験を行ない，普及に移す。Bナインのりんごに対する試験に従事し，その普及指導を行なった。

国 武 正 彦 氏



昭 2 2. 鹿児島農専卒。

昭 2 2. 農事試験場北陸支場に入り，九州農試を経て，昭 2 7. 新潟県農試に移り，現在新潟県農林部農産普及課副参事稲作係長。水田裏作，水稻直播の雑草分布に関する研究，PCP，DBNによるヒエ除草法の確立。

野 村 正 氏



昭 1 0. 岐阜高農卒。

昭 1 0. 農事試験場鴻巣試験地に入り，新潟県農試・福井県農試を経て，昭 2 4. 兵庫県農試に移り，現在作物部長。

水稻作・麦作用除草剤の実用化試験に従事し、各種除草剤を普通移植栽培、機械移植栽培、苗代・乾田直播栽培、麦作栽培へ移した。

若 林 確 氏



昭 1 4. 岡山県農業技術員養成所卒。

昭 1 4. 岡山県農試に入り、岡山県専技、岡山県笠岡農業改良普及所長を経て、現在は岡山県農林部普及振興課専技主幹。

各種除草剤の実用化に対して安全使用の徹底、普及。水稻乾田直播栽培に対する除草体系の確立と普及。稲・麦の省力安全栽培としての各種除草剤の検討、とくに多株穴まき（麦）・イタリアン跡の水稻不耕起まき体系における除草剤の体系化に努めた。

東 浩 氏



昭 2 8. 香川県高等農業講習所卒。

昭 3 0. 香川県農試に入り、現在に至る。

水稻移植、麦類の雑草防除、とくに除草剤に関する試験を担当し、香川県における水稻・麦類除草剤使用基準、除草体系の確立に努めた。

藤 枝 国 光 氏



昭 2 7. 九州大学卒。

昭 2 7. 九州農試園芸部に入り、園試久留米支場そ菜第 1 研究室長を経て、昭 4 3. 大分県農技センターそ菜部長、

現在に至る。

そ菜関係除草剤・生育調節剤の実用化試験に従事し、ウリ類の生育調節剤について研究。

八 木 友 一 氏



昭 1 5. 愛媛県伊予農学校卒。

昭 1 7. 愛媛県農試に入り、東子分場長となり、現在に至る。

水稻に対する 2,4-P A の薬害と収量、芽搔土入作業の組み合わせと麦畑雑草に及ぼす影響、P C P の魚毒、湛水直播栽培における N I P 処理方法について研究。目下、休耕田の雑草防除法、地域特産野菜栽培の雑草防除法について研究中。

井 上 利 志 栄 氏



昭 1 5. 京都大学卒。

昭 1 5. 農事試験場に入り、統計調査部、福岡農試に移り、昭 4 6. 場長となる。

除草剤、生育調節剤の利用開発研究に努めた。

湯 田 保 彦 氏



昭 2 8. 鹿児島大学卒。

昭 3 0. 鹿児島県農試大島支場に入り、本場作物部に移り、現在は主任研究員。

移植水稻に対する C N P 乳剤、N I P 乳剤の原液流し込み、滴下処理法を開発した。目下、南九州シラス水田における薬害発生要因、水稻移植後のミズガヤツリの防除試験に従事している。